

美術科学習指導案

日時 平成30年6月1日（金）第1校時
対象 2年4組（男子20人 女子20人 計40人）
指導者 教諭 前之園 礼央

1 題材 2年 表現（絵に表現する）及び鑑賞（美術作品などの見方や感じ方を深める）

2 題材名 「二枚の絵」～学びを生かして描こう～

3 題材設定の理由

(1) 題材観

人には外界からの刺激を受け、自分の内面にある思いや感情などと向き合い、外界へ表現したいという思いがある。時にそれは文字で書くという行為で表現されたり、音を奏でるという行為で表されたりすることもある。また同様に、人は形や色彩により絵を描くことによって自分の思いや感情などを表現してきた。二万年前、人類の祖先がラスコーの洞窟に牛などの動物を壁画に描き、豊かな狩りの成功を願ったとされていたり、我が国においても、いにしえより絵巻物などに自然や人智を越えたものへの尊崇の念を描いたりするなど、その例は洋の東西を問わず枚挙にいとまがない。さらに現代に至るまで多くの人々が、自然や日常の事物などから主題を生み出し美術作品を創り続けており、見たり感じたりしたことなどを基に、心の世界を表したいという思いは、人に備わった基本的な欲求や感情であろう。また一方で、人は自分の思いや感情などを表現するだけではなく、他者の表現した作品を鑑賞することを通して、他者と思いや感情を共有したり、他者の表現の中から新たな気付きを得てさらに見方や感じ方を広げ深めたりしてきた。絵による表現と鑑賞を含め、人類の歩みと共に不断に行われてきた表現と鑑賞とを相互に関連させたこれらの営みは、今日の豊かで多様な文化を創造し継承、発展させてきた基盤の一つといえよう。

今日は「知識基盤社会」と呼ばれ、社会の構造的な変化の中でグローバル化が一層進み、旧来のパラダイムが転換される中、幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断が求められるようになると考えられている。また同時に、人工知能の発達に伴うシンギュラリティの概念に代表されるように、今後、大量の情報を整理し、過去の事例等を基準に正確に速く処理するなどといった作業の多くは、コンピュータ等が担うようになるといわれている。変化が激しく予測が困難なこれからの時代において、人類がこれまで創造してきた豊かな文化や文明を継承し発展させつつ、今日抱える課題をよりよく解決して持続可能で豊かな社会を創造していくためには、個々の文脈や事象に対して創造性を発揮させて自分の思いや考えなどを表現したり、他者と協働して課題を見いだし、それらをよりよく解決して新たな価値を創造したりする力が一層求められるようになると思う。

中学生の時期は心身が著しく成長し大人に近づく一方で、子供らしい考えや行動も併存する時期である。そのため、この時期は「疾風怒濤の時期」と例えられるように、理想と現実、本音と建て前などの間で悩み葛藤し、人格の完成に向け自己や真理とは何かを真摯に問い考える時期でもある。このような時期に見たり感じたりしたことなどと、自分の内面にある思いや感情結びつけて主題を

創出し、意図に応じて自分の表現方法を工夫して創造的に表現したり、自他の作品を鑑賞してよさや美しさ、よりよい表現に向けた課題などを見いだしたりして、対象や事象を捉える造形的な視点への理解を広げ、深めることは、これからの社会を豊かに生きる大きな力になると考える。

(2) 指導観

本題材は、一年生の四月に描いた校内の風景画を三月に「形や線」「色彩」「構図」「イメージ」など視点をもって主題と表現とのつながりに着目して鑑賞し、自分や他の生徒の表現のよさや美しさへの見方や感じ方を広げると共に、他の生徒との意見交換を通して自分の表現をよりよくする新たな課題を見いだした学習を踏まえて行う。

題材の導入の段階では、まず、市立美術館の収蔵作品の風景画8点のアートカードを教師が4人1組のグループの生徒に渡す。生徒はそこから自分が好きなアートカードを1点選び、一年生の三月に自分や他の生徒の作品を鑑賞した時と同じ視点で、主題と表現のつながりに着目して鑑賞して作品のよさや美しさへの見方や感じ方を深め、他の生徒へ感じ取ったよさや美しさを根拠をもって説明する。次に、教師が生徒に再度、校内の風景画を描くことを提案し、より自分が満足のいく絵を描くためにはどうすればよいか考えさせる。具体的には、生徒が事前に行った自分や他の生徒の作品の鑑賞から見いだした、自分の表現がよりよくなるための課題と、市立美術館の風景画の作品の鑑賞で感じ取った作品のよさや美しさを、本題材で描く二枚目の風景画の表現と関連させられるようにしたい。また、作品の主題の創出に当たっては、生徒に描きたいと感じ選んだ場所を、造形的な視点を豊かに働かせて振り返らせ「だれもいない玄関の静かな雰囲気を描きたい」とか「花壇の鮮やかな色彩を表現したい」など、表したいことを強く心の中に思い描けるようさせたい。さらに、生徒が造形的な視点を働かせて発想し構想を練ることで、生徒に「主題と表現とのつながり」という、本題材における発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考え方を捉えさせ、鑑賞の学習が単に表現のための参考となり、作品を表面的に見ることがないように留意させたい。

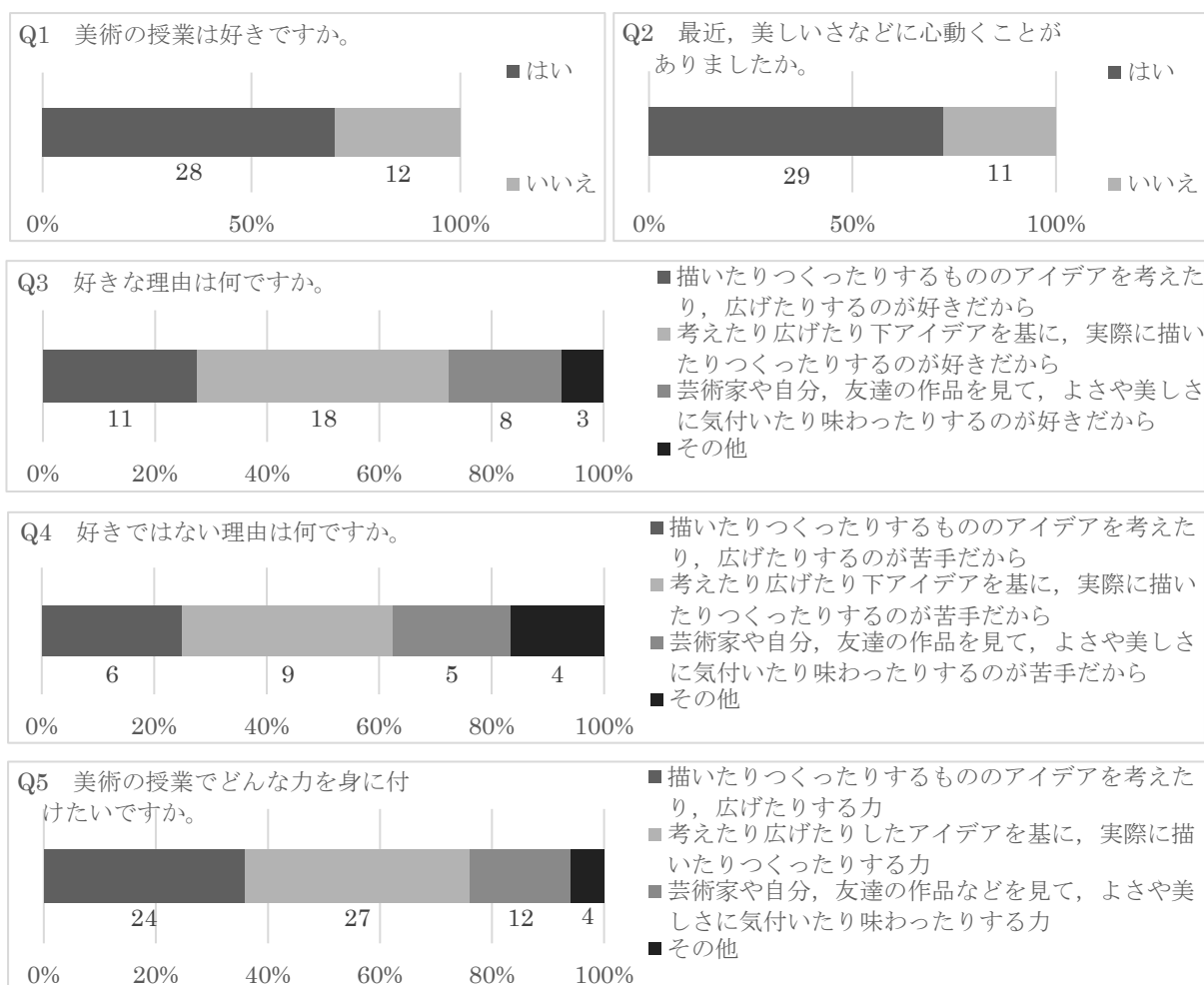
題材の展開の段階では、生徒が創出した主題を具体化するために、一年生で学習した透視図法や混色・重色などの基礎的な技法を活用させたい。また、制作の各段階で自分の作品を、「形や線」「色彩」「構図」「イメージ」など視点をもって振り返らせ、単に「上手にできた、できなかった」などの評価ではなく、主題と表現を構成する形や色彩などの視点との関係に照らして表現のよさや効果を確かめ、創造活動の喜びを味わいながら制作を進めさせたい。さらに、制作の終盤で鑑賞の時間を設け、生徒が一年生で描いた一枚目の風景画の表現のよさやより表現に向けた課題、市立美術館の収蔵作品のアートカードを鑑賞して感じ取った表現のよさなどと、本題材で描いている二枚目の風景画とを関連させ、創出した主題がより表れた作品となるための表現方法を追求し、生徒が価値意識をもって達成感や充実感を味わい作品を完成させられるようにさせたい。

題材の終末の段階では、生徒に完成した作品を自分なりに振り返らせ、「形や線」「色彩」「構図」「イメージ」などの視点で主題がどのように、どの程度表現されたかを見取らせたい。また、一年生で描いた一枚目の風景画や市立美術館の収蔵作品のアートカードと本題材で描いた二枚目の風景画を比較させ、自分や他の生徒の作品や作品に込められた主題、さらに主題を表現するための創造的な表現の創意工夫を見いださせたり感じ取らせたりさせ、多様な表現のよさや美しさへの見方や感じ方を深めさせ、美術を愛好する心情を育ませたい。

(3) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。

(対象は附属中学校 2 年 3 組 40 人 平成 30 年 4 月 14 日実施)



本学級の生徒は明るく素直で、学習活動にも意欲的に取り組む姿が多く見られる。一方で美術を好きと答える生徒が7割弱にとどまっており、発想や構想の段階で、生徒が心の中に強く思い描いた主題を、創造的に表現する段階で思い通りにできていると感じているか否かがその原因の一つと考えられる。生徒が自分のこれまでの作品の表現のよさや課題を捉え、それを新たな作品の主題や表現方法につなげることで、学びの軌跡の中で自分の技法を含めた表現方法の高まりや広がりを感じ、創造活動の喜び味わい授業に取り組むことができると考える。また授業を通して身に付けさせたい力について、多くの生徒が表現に関する力を上げている。表現と鑑賞の相互の関連を一層関連させていきたい。

4 題材の指導目標

(1) 美術への関心・意欲・態度

見慣れた校内の風景を造形的な視点で捉え直し、形や色彩の面白さ、それらがもたらすイメージへの関心を高め、意欲的に表現しようとすることができる。

(2) 発想や構想の能力

一年生で描いた風景画の表現のよさや課題などや鑑賞で感じ取った表現のよさと、二年生で描く風景画の表現とを相互に関連させて発想、構想し、作品の主題を創出することができる。

(3) 創造的な技能

創出した主題を表現するために、既習の知識や技法を生かしたり、意図に応じて自分なりの表現方法を工夫したりして作品を制作することができる。

(4) 鑑賞の能力

自分の表現のよさや効果について造形的な視点を基に鑑賞して感じ取ったり、自他の作品のよさや美しさへの見方や感じ方を深めたりすることができる。

5 指導計画（全体8時間：本時7／8）

時	主な学習活動		主な学習の活動
1	1 市立美術館が収蔵する風景画のアートカードを鑑賞する。 2 自分が好きな風景画のよさや美しさを造形的な視点を働かせ感じ取る。	5・6	5 既習事項を生かし、主題と表現とのつながりに留意し、表現方法を創意工夫して彩色をする。
2	3 学習課題を知り、鑑賞で感じたり学んだりしたことを生かし、作品の主題を創出する。	7（本時）	6 自分の作品を鑑賞して表現のよさや、主題をよりよく表現するための課題を見いだす。
3・4	4 既習事項を生かし、主題と表現とのつながりに留意し、表現方法を創意工夫して下描きをする。	8	7 主題をよりよく表現するための表現方法を意図に応じて工夫して作品を仕上げる。

6 単位時間の評価規準

時	学習に即した評価規準及び生徒への手立て			
	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1				① 風景画のよさや美しさを造形的な視点を働かせ感じ取っている。 （ワークシート・発表） 〔C:対話によって考えを整理させる。〕
2	① 校内の風景を造形的な視点を働かせ捉え直し、意欲的に表現している。 （活動の様子、作品） 〔C:参考作品や他の作品を参考にさせる。〕	① 鑑賞での学習を生かし、色彩や構図などの視点を基に主題を創出している。（活動の様子） 〔C:対話によって関心をもたせる。〕	① 主題と形や色彩、構図などを結びつけ、下描の表現方法を工夫している。（活動の様子、作品） 〔C:参考作品や他の作品を参考にさせる。〕	
3・4		② 創出した主題を表現するために、鑑賞で学んだことを生かし、表現方法を創意工夫している。（生徒の様子、作品） 〔C:個別指導で手がかりを与える。〕	② 透視図法など、既習事項を生かして表現方法を創意工夫し、主題を表す下描きをしている。（活動の様子、作品） 〔C:自己課題に応じた机間指導をする。〕	
5・6		③ 主題を表現するために、鑑賞で学んだことを生かし、表現方法を創意工夫している。（生徒の様子、作品） 〔C:個別指導で手がかりを与える。〕	③ 混色や重色など、既習事項を生かして表現方法を創意工夫し、主題を表す彩色をしている。（活動の様子、作品） 〔C:自己課題に応じた机間指導をする。〕	

7 (本時)		④ 主題と表現とのつながりを造形的な視点を働かせて捉え、よりよい表現方法を考えている。(活動の様子) [C:個別指導で手がかりを与える。]	④ 主題をよりよく表現するための表現方法を意図に応じて工夫している。(活動の様子, 作品) [C:主題と表現とのつながりに応じた指導をする。]	③ 自他の作品を見て、よさや課題を見だし、伝え合っている。(活動の様子, ワークシート) [C:主題と表現とのつながりに応じた指導をする。]
8			⑤ 主題をよりよく表現するための表現方法を工夫し作品を仕上げている。(活動の様子, 作品) [C:主題と表現とのつながりに応じた指導をする。]	② 自他の作品のよさなどを自分なりに感じ取り、伝え合っている。(発表, ワークシート) [C:主題と作品の関係を問う。]

() は、評価の対象、[C:] はBに到達しない生徒への手立てとする。

8 本校の研究内容との関連から（教科論文、本時の手立てとの関連）

研究の視点Ⅰ『創造的な学び』を支える3つの活動

生徒が自他の作品を豊かに鑑賞し表現するには、造形的な視点を豊かに働かせて作品のよさや課題を見だし、自分らしい表現方法を追求のための発想を広げ、多様な発想や考えをよりよくまとめる必要がある。各段階での発問を工夫することで、生徒の創造的な学びが推進され则认为る。

研究の視点Ⅱ『能動性』・『独自性』を育む指導と評価の工夫

生徒が造形的な視点を豊かに働かせ、自分の思いや考えをワークシートなどの思考ツールに書き可視化することで、自分なりの価値意識をもって表現や鑑賞の学習を積み重ねることができる。このことにより生徒の能動性や独自性が育まれ、表現と鑑賞の学習の双方に働く中心的な考えを軸にそれぞれの資質・能力が高められるようになる则认为る。

研究の視点Ⅲ『協働』の視点を取り入れた指導の工夫

自分と異なる他の生徒の意見や表現方法に触れ、造形的な視点を基に意見交換することで、生徒の美術作品に対する見方や感じ方をより広げ深めることができる。個での学習と共にグループでの学習など協働の視点を取り入れた学習を意図的に設けることで、より豊かに造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てることができる则认为る。

9 本時の実際（7／8）

(1) 指導目標

ア 主題と表現とのつながりを造形的な視点を働かせて捉え、よりよい表現方法を考えることができる。 【発想や構想の能力】

イ 主題をよりよく表現するための表現方法を意図に応じて工夫して表現することができる。 【創造的な技能】

ウ 自他の作品を見て、よさや課題などを感じ取り伝え合うことができる。 【鑑賞の能力】

(2) 準備するもの

教師： 教科書、美術資料、ワークシート、アートカード

生徒： 教科書、美術資料、Art Works, Art Map, 水彩絵の具、筆記用具、

(3) 本時の展開

過程	時間	形態	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導入	5分	一斉 個別	1 前時までの学習を振り返り本時の学習目標を知る。 主題と表現とのつながりを振り返り、よりよい表現方法を見いだそう。 2 前時の振返りを生かして自己課題を考える。	○ 学習の流れを提示し、学習の見通しをもたせる。 ○ 主題と形や線、色彩、構図などとのつながりに着目して風景画を描いていることを意識させる。 ○ 学習目標をよりよく達成するための自己課題を考えさせ、振り返りシートに記入させる。(実践編2 pp132)	振り返りシート
展開	5分	個別	3 作品と作品裏のワークシートを見比べ、主題と表現のつながりを振り返る。	○ 形や線や色彩、構図、主題などの視点で主題と表現とのつながりをワークシートで確認させる。(実践編1 pp66-67)	作品ワークシート
	10分	グループ	4 自分の作品の主題と表現とのつながりを他の生徒に説明する。 ・ 校舎の立体感を表現するために透視図法を使って描いたよ。 ・ 水墨画の作品を見て、墨の濃淡による表現の美しさを、葉の表現に生かして描いたよ。	○ 4人グループをつくらせ、他の生徒に主題と作品とのつながりを説明させる。 ○ 発想を広げる拡張発問を教師が行ったり、生徒どうし行えるよう呼びかけたりして、主題と表現とのつながりを多角的に捉えられるようにする。(実践編1 pp44-45・pp92-93)	
	8分	個別	5 主題と表現のつながりを再考し、よりよい表現方法を考える。 ・ 誰もいない玄関の静かな雰囲気を描きたいので、もっと寒色を塗り重ねてみよう。 ・ 一年生で描いた絵より遠近感を表現したいので、近景や中景と遠景とを描き分けられるようにしたいな。	○ 一年生で描いた絵や市立美術館の作品の鑑賞で学んだことや、水彩画の技法や構図の種類と特徴など、これまでの学びを生かすことを意識させる。 ○ 発想をまとめる焦点化発問を教師が意図的に行い、生徒が表現方法をよりよくまとめ、見いだすことができるようにする。(実践編1 pp45)	
	17分	個別	6 作品の仕上げに向け、よりよい表現方法を取り入れて彩色をする。 ・ 寒色を使うことで静かなイメージが表現できているな。 ・ 混色や重色の仕方を思い出して、考えた表現方法で描いていこう。	○ 生徒が設定した自己課題に即した机間指導を行い、生徒が表現したいと心の中に強く思い描いた主題を具体化できるようにする。 ○ 多様な表現のよさを大切にすることを伝え、生徒が自分や他の生徒の表現のよさや美しさを感じ取れるようする。	水彩絵の具 ※片付けは授業後に行わせる。
終末	5分	個別 一斉	7 自己課題を振り返る。 ・ よりよい表現方法を考えて工夫することで、描きたい主題に近づけることができているな。 ・ 一年生で描いた絵より、自分の思いを表現する絵になっているな。 8 次の予告を開く。	○ 次の時間の学習につながるよう、自己課題を振り返らせ、振り返りシートに記入させる。(実践編1 pp132) ○ 次の時間で作品を仕上げることを知らせる。	アートマップ